

漁師が考えた小型ブロック「貝藻くん」に関する最新情報！！



貝藻くん NEWS

Vol.
11
2025.1

水産多面的機能発揮対策事業での活用事例

愛媛県（三崎地区海洋・環境保全協議会）の事例

2015年10月に藻場保全の取組で、母藻の設置基盤として貝藻くんが活用されました。約8年半後の2024年5月に調査すると、貝藻くんとその周囲にはクロメ、ホンダワラ類が繁茂していました。アカウニやサザエなどの貴重な磯根資源も多く、生態系のバランスが取れた健全な藻場になっていました。



母藻の取付



設置直後の状況



クロメ・ホンダワラ類が貝藻くんに繁茂！！



着生状況



周囲に藻場が拡大



サザエ・アカウニ



調査後の報告会

山口県（阿武藻場保全グループ）の事例

2022年11月に、海藻がほとんど生えていない場所に、ノコギリモクの母藻を取り付けた貝藻くんが移設されました。すると、1年後には周りに幼体の着生が見られるようになり、2年後には立派に生長し、被度も高くなっていました。



ノコギリモクの母藻取付



2023年11月

1年後



2024年11月

被度が拡大



貝藻くんの移設



幼体が見られるように！

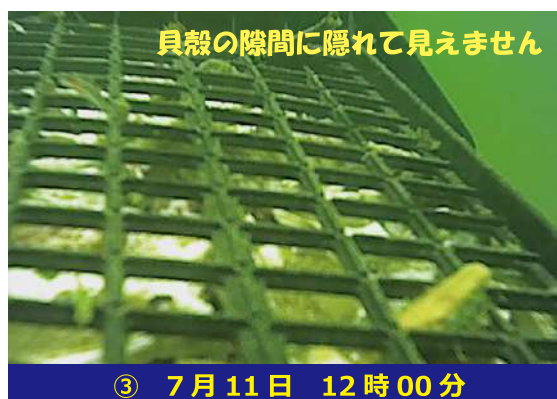
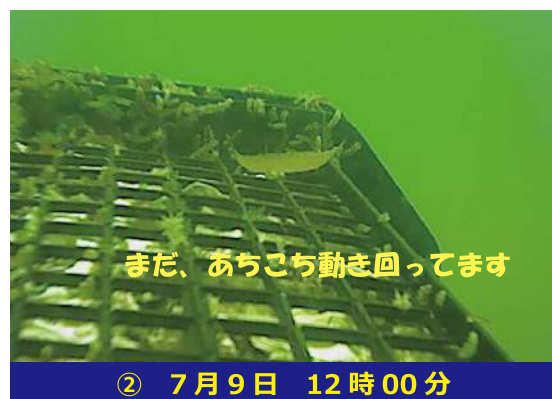


立派に生長した！！

稚ナマコの放流・調査事例

タイムラプスカメラで稚ナマコの行動を観察（長崎県西彼町）

貝藻くんに放流した稚ナマコの行動を、タイムラプスカメラで約1週間にわたり撮影しました。稚ナマコは放流から2日目くらいまでは昼夜問わずに動き回っていました。そして、3日目あたりから昼間は貝殻の隙間に隠れ、夜は活発に動き回る行動が見られるようになりました。貝殻の隙間が稚ナマコにとって安全な隠れ場となり、夜はパーティータイムに突入することが分かりました！！



稚ナマコの放流・追跡調査を実施（石川県七尾市）

稚ナマコを放流した貝藻くんの追跡調査を、放流から1年後の2024年9月に行いました。引き揚げた貝藻くんからは、体長33～78mm（放流時10～50mm）に成長したナマコが22尾出てきました。放流から1年経過後においても、小型のナマコの生息場として効果を発揮していることを確認出来ました！



引き揚げ調査の状況



出現したナマコの一部



新たな稚ナマコの放流も実施

大阪湾で活躍する貝藻くん！！

稚ナマコがわんさか！！（神戸市須磨海岸の事例）

神戸市漁業協同組合が取り組む試験調査の一環で、須磨海岸に貝藻くんが設置されました。貝藻くんは2024年4月に設置され、稚ナマコの放流が行われました。7月に引き揚げたところ、約150尾のナマコが貝藻くんから出てきました。潜水調査では、マダコやメバル、カサゴなども見られ、多様な生き物の生息場となっていることがわかりました。



須磨海岸



貝藻くんの引き揚げ



生き物調査



貝藻くんから出てきたナマコなど



マダコ



メバルの幼魚



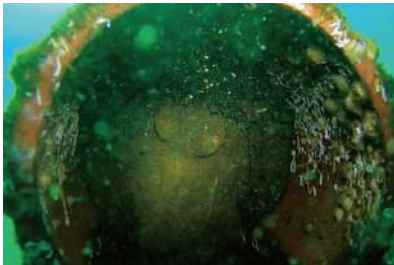
カサゴ

港湾施設での生息空間の創出（神戸新港）

生物共生機能を高めることを目的に、傾斜式護岸の方塊ブロック上に貝藻くんが取り付けられました。設置から3カ月後の2024年12月に実施した調査では、マダコやイシガニ、ウミタナゴなどの魚介類が見られ、貝殻ケースの中には小さなエビ・カニ類、ゴカイ類など魚のエサとなる動物が多く確認されました。



神戸新港



マダコ



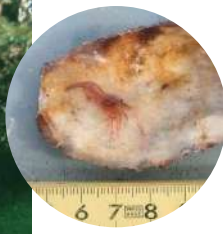
ウミタナゴ



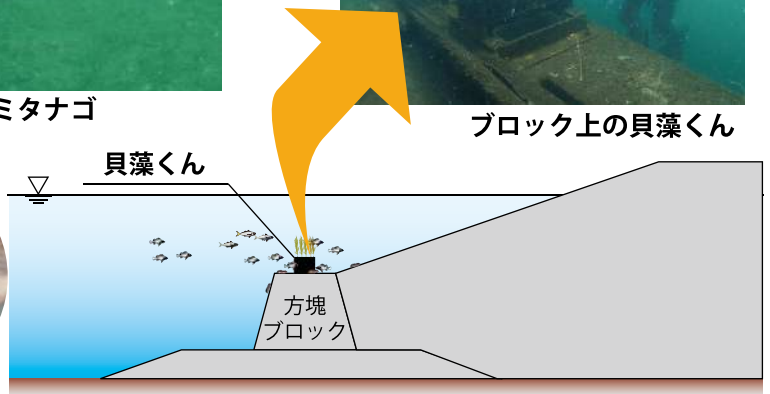
ブロック上の貝藻くん



イシガニ



小型のエビ類



貝藻くんの設置イメージ

漁業者と企業の協同による取組（広島県江田島市）

深江漁協と地元建設業者の大新土木（株）の協力のもと、貝藻くんなどを活用した漁場が造成され、ホンダワラ類の母藻設置、稚ナマコの放流も併せて行われました。2024年10月に実施したモニタリングでは、引き揚げた貝藻くんから71尾のナマコが出現、7匹のマダコの産卵、ホンダワラ類の幼体着生といった効果が早くも見られました。



2種類の貝藻くんを導入



ホンダワラ類の母藻設置



稚ナマコの放流



抱卵マダコ



ホンダワラ類の幼体が着生



貝藻くんから出現したナマコ



多くのマダコに利用されていた

マダイの種苗放流（大分県津久見市）

大分県津久見市の漁港内に設置された貝藻くん、マダイの種苗放流が行われました。放流直後のマダイ種苗は、貝藻くんの周りを元気に泳ぎ回っていました。無事に大きく成長し、資源の回復に繋がることが期待されます！！



マダイ種苗放流の状況

大学との共同研究（岡山県玉野市）

マダコは重要な水産生物であるにもかかわらず、稚ダコ期の生態については謎が多い生き物です。そこで、東京海洋大学では貝藻くんを使用した現地調査を岡山県玉野市海域で開始しました。稚ダコの生態解明に期待が持たれます！！



現地調査の様子